

## 星の序章 (15) いっかくじゅう座・とびうお座

土山 紀子

3月になると暖びやかな冬の星座が少しずつ隠れ、しとやかな春の星座が顔を覗かします。雛祭りの夜、冬の面影を惜しむように、まずはふたご座といっかくじゅう座が子午線を通り、11時に1るとこいぬ座が南に。その後はかすかな春の星座たちが静かに確実にやってきます。

今月はそんな星座たちの叫から、冬の銀河に紛れるいっかくじゅう座と、南天を泳ぐとびうお座をご紹介します。

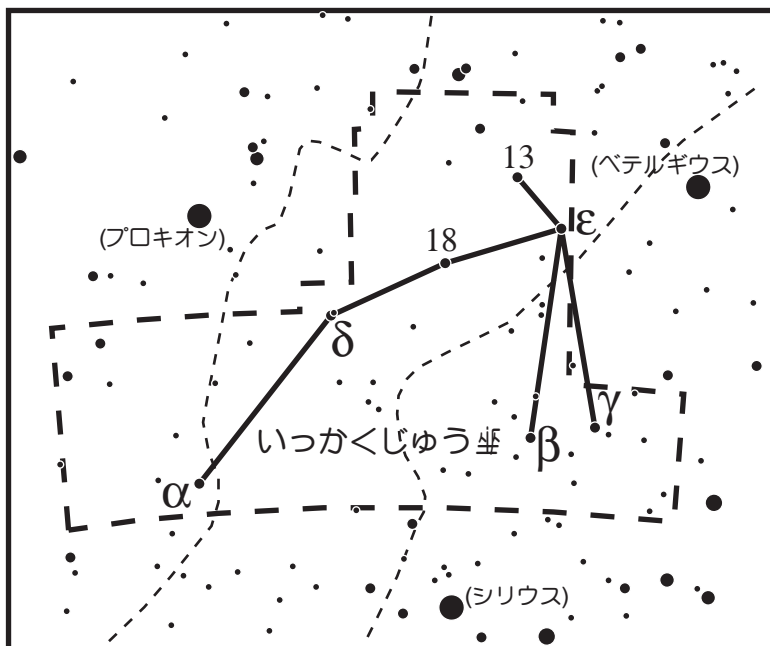
天の赤道上に横たわるいっかくじゅう座は、おおよそ冬の第三角形（ベテルギウス・シリウス・プロキオン）の真ん中に位置していますが、実はうみへび座に接しており、意外に広い面積を持った星座です。

いっかくじゅう座が象っているのは、想像上の動物ユニコーン（一羊獣）。ギリシア語派ではモノケロスと呼び、星座名ではこちらが採用されています。設定は、1624年にドイツのヤコブス・バルチウスによるとするのが一般的ですが、それ以前の1564年頃の書物やペルシアの天球儀に既に描かれていたという説、1690年のヘベリウスの書物が最初とする説もあり、定かではないようです。古い星座絵では、この星座は一羊獣のほか、馬、蛙、真先に角を持った魚などの図柄で描かれていました。

さて、想像上の一羊獣がどんな動物だったか、皆さんはご存じでしょうか？ 額に突き出した長い1本の角を持つ、馬に似た動物ですね。古代ギリシア・ローマでは東の国に実在すると考えられており、多くはアッシリアの美術品にも登場しています。古代ギリシアでは、一羊獣は霊験あらたかな動物で、角には解毒作用があり、足が速くてなかなかつかまらないと考えられていました。一羊獣の角を砕いて薬にすれば悪魔から身を守ることができるともいわれ、多くのハンターが一羊獣を狙い、王たちの宮殿では様々な詐欺が繰り

上げられたとも伝えられます。

1世紀ヨーロッパにおいては、一羊獣は人間か人間の子供くらい大きさだが、凶暴で捕まえることは困難。その一方乳牛の膝に乗るのが好きで、乳牛をおとりに捕らえて乳を飲ませれば大人しくついてくると言われました。乳牛を好む一羊獣は、1世紀のキリスト教美術で乳牛マリアの象徴とされ、やがて宗教学にも登場することになります。



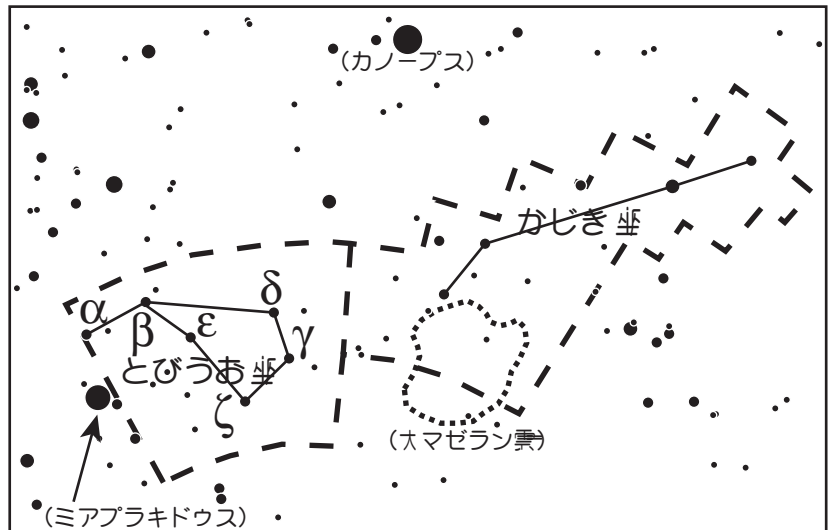
また他の伝説によると、一子獣は世外で最も人里離れた寂しい場所、雲に覆われたヒマラヤの山々の頂に住んでいました。ヒマラヤ地方の人々は、三日月を一子獣の角の象徴、太陽と月を一子獣が行き来する姿と見ており、軒は太陽（獅子）が空の王座を勝ち取り、夕方になると太陽は月（一子獣）にその座を明け渡すのだということです。

神秘的で捕らえどころのない幻の動物という伝説にふさわしく、いっかくじゅう座は冬の銀河に埋もれた探しづらい星座です。α星が3.9等、β星が3.8等、あとは4等星以下の暗い星ばかりで子育星がついた星もありません。

この星座をたどってみるには、まずα星を探し出すとよいでしょう。シリウスとプロキオンを結んだ線を二等分し、そこから少し東へ視線をずらすと、肩辺で一番明るい星がいっかくじゅう座αです。αから、ベテルギウスに向かって連なるδ(4.2等)、18番星(4.5等)、ε(4.3等)が胴本、εから南に二つの線を伸ばしてβとγ(4.0等)につなげると、これが2本の前足。εの北にある13番星(4.5等)が額に輝く角の付け根に当たります。

オリオンの背後で銀河の間に紛れた一子獣は、背を立てずにハンターオリオンに襲いかかる野獣の象徴とも見られています。

次にご紹介するとびうお座は、天の南極付近の星座で日本からは全く見ることができません。赤道直下のシンガポール市まで南下すると、ようやく地平線から20度くらいの高さで南見します。4等前後の暗い星ばかりという事情も手伝って、日本人には馴染みの薄い星座ではないでしょうか。



とびうお座は、ヨハン・バイエルがオランダの航海士ケイザー（ラテン語名ペトルス・テオドリ）の手記を参考に、1603年『ウラノメトリア』に収録し設定した星座の一つです。ケイザーと助手のホウトマンは、当時のヨーロッパ人には珍しい南の動植物などを叫心に南天に12個の星座を設定し、バイエルは、はえ座を除く11星座を採用しました。バイエルのはえ座の代わりに“みつばち座”を設けましたが、後にラカイユによって訂正され、12星座は全て現在使われています。

とびうお座は、アルゴ座（りゅうこつ座）αカノープスとβミアプラキドゥスの間に挟まれた小星座で、星座絵を見ると、アルゴ船にまわりついて戯れているように描かれています。トビウオの頭に当たるα星が4.0等、背びれのβが3.8等、尾のγが3.8等、腹びれのδが4.0等。子育星を持つ星はありません。

とびうお座の隣にはかじぎ座がありますが、実際の海の上でもカジギは船の近くを飛び跳ねて遊び、トビウオの群れを足いかけてエサにするということです。